円山動物園　ワークブック　先生用資料

対象　小学校高学年

円山動物園環境教育教材

教科内でできる環境教育教材

オランウータン編

1.ねらい

オランウータンの抱えている問題を「身近な問題」と捉え、自分たちの生活にどのような関係があるのかを考える。また、児童たちが普段行っている環境のための行動が、動物たちにどういう繋がりがあるかを理解し行動できる。

2.学習のながれ

がｋ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 主な学習活動 | ねらい |
| **①事前学習** | 動物園に行く前にオランウータンの種としての特徴を自分たちで調べまとめる。 | 動物に興味を持ち、動物園に行くのが**楽しみ**になる。 |
| **②動物園学習** | 動物園で調査ノートを使い、楽しみながら動物を個としてよく観察する。 | 楽しみながら、動物を個体として観察し、**身近に感じる**。 |
| **③事後学習** | ①②又はこれまでの学習をもとに、動物の紹介をすると共に、動物や人間が生きていくうえで必要なものを発表し比べる。 | 動物の生活環境と自分たちの生活が**つながっている**ことを認識する。（身近な問題として考える） |

3.ワークブックの取扱い

**１**

命の大切さがわかる

個体を観察する体験を通して、動物に対する驚きや感動が生まれ、命の大切さを理解することができます。

**２**

人と動物と環境の絆を認識―環境に配慮した行動の必要性が理解できる

自分たちの調査、観察、紹介から、種ではなく１つの命ある個体弟路郎に親近感を持つことができます。また、オランウータンの生息地の環境問題を、自分とつながりのある身近な物として感じることができます。普段行っている、また、良く耳にする環境に配慮した行動が、何のために行っていることなのかを理解することは、将来的に子どもたちが社会の中でその行動を持続させるために必要なことです。

**３**

自分の意見を持ち他人に伝えられる

　児童用資料の質問のほとんどが「間違った答え」はなく、観察した個人の感じ方によって違いが出るようにしてあります。これは動物を身近に感じさせると言う目的もありますが、自分の体験（観察）から出た言葉を他人に伝え、それについて話し合うためでもあります。自分なりの考えを伝える、人の考えを聞くということを動物に仲介してもらいながらスムーズに行えます。

**オランウータン参考資料**

**▼分布**

インドネシア（スマトラ島北部、ボルネオ島）

マレーシアに分布している。

**▼特徴**

オランウータンは肘から先の前腕が長く、腕全体の長さは脚の2倍ある。大腿骨を骨盤に保持する股関節の靭帯がないため、人やほかの霊長類と異なり、脚の動きに制約が少ない。雄の顔の両脇にある張り出しは「フランジ」と呼ばれ、強い雄の印になる。弱い雄は何歳になってもフランジが大きくならないが、強い雄がいなくなると、フランジのない雄は急激にフランジを発達させて１年以内にフランジのある雄に変わっていく。雄にはのどから胸にぶら下がるのど袋があり、これを膨らませて「ロングコール」と呼ばれる叫び声をだし、縄張りを主張したり、発情した雌を呼んだりする。ほとんど樹上で生活し、成獣の雄以外は基本的に地面に降りることはない。類人猿の中ではもっとも単独性が強く、グルーミングや遊び等の社会交渉を行う頻度は活動時間の1％以下であるが、完全な単独性ではなく、日中は3～7頭が一緒に採食したり、連れ立って移動することもある。雌の性成熟は10歳くらいで妊娠期間は270日、平均で6年に一度、1頭を産む。子どもは3歳ごろまで母親と一緒にいるが、7～10歳ごろで独立する。

**▼食性**

雑食で約60％が果実、そのほかに若葉や昆虫、小動物を食べる。

**▼寿命**

野生 約40年／飼育下 約50年

**★減少の理由**

開発による森林伐採や火災による生息地の破壊、展示用やペット用の乱獲等により生息数が減少。生息地では販売や飼育は法的に禁止されている。密輸された個体の一部はリハビリテーションセンターに収容し、野生復帰させる試みが進められているが、センター内で死亡する個体や復帰させる自然環境が既に消失している等の問題もある。